

農林業振興策について

町長／担い手支援室を設置



新屋敷 浩議員

町立診療所の今後

町長／地域医療確保に努力

新屋敷 平成19年3月で業務委託契約が満了となる町立診療所の今後をどのように考えられるか。地域医療確保には是非必要と思うが町長の考えを伺う。

町長 平成9年4月より、担当医師と診療所業務委託を行い、これまで旧薩摩町での地域医療確保と医療福祉の向上に貢献され、患者に対する診療姿勢も良く、また、高齢者の多い地域でもあり、担当医師も継続を希望されているので、地域医療確保に努めていきたいと思います。

町長 「品目横断的経営安定対策」の施策公表を受け、集落営農推進に早急に取り組む必要性から、行政、農協等の関係機関と連携を密にし役場内に「担い手育成支援室」を設置し、更に本年6つのモデル地区を設け、国庫事業の導入も予定しております。



役場本庁に担い手育成支援室を設置

梅の生産面積拡大の考えは

町長／新植80ヘクタール目標



市来 修議員

市来 梅の生産は、効率が良い、収入の60パーセントは利益がでるということである。本町への加工場建設について、和歌山県の業社が前向きに取り組んでおられる。町としても、作付け面積拡大と、その普及手段についての考え方はないか。

町長 梅の生産は、薩摩地区で約80ヘクタールの作付け面積であります。梅栽培は、始めるとき、投資が少なく収穫の全量を買って上げてもらい、収益が安定しております。



梅の木の消毒作業

一例として、収量24トンで収入も高額な方もおられます。作付け面積拡大については、宮之城、鶴田地区に5年間で80ヘクタールの新植を目標とし、町の苗木補助事業等を勧めながら維持管理の困難な梅園については、オーナー制度も検討します。普及推進については、町、普及センター、JAさつま等で構成する町技連会が集落等に出向き、積極的に推進してまいります。